

## 中村川水系河川整備計画 意見と対応

資料-4

No	項目	意見	対応	意見区分
1 流域及び河川の現状と課題				
1	1. 1. 2 中村川沿川の歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中村川水系に寄せた歴史、文化を記載した方がよい。 (中泊町博物館 斎藤委員)</li> </ul>	本文変更 (p. 5 1. 1. 2)	第1回懇談会
2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「世界最大級の原生的なブナ林」を「東アジア最大級のブナ林」に修正してください。</li> </ul>	本文変更 (p. 5 1. 1. 2)	環境担当部局 (青森県環境エネルギー部)
3	1. 3 水利用及び水量、水質の現状と課題 1. 3. 1 水利用の現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「白沢川」を水源として給水する旧芦苑地区簡易水道事業は、平成29年に現在の「鰺ヶ沢町水道事業」(上水道事業)に統合されており、「白沢川」から、「簡易水道用水」ではなく、「水道用水」として取水しているため、「簡易水道用水」から「水道用水」に表記を修正したい。</li> </ul>	本文変更 (p. 11 1. 3. 1)	水道担当部局 (青森県県土整備部都市計画課)
4	1. 3. 3 水質の現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図1-15 令和5年度のBODの結果 (0.9mg/L) を追加してください。</li> </ul>	本文追加 (p. 13 1. 3. 3)	環境担当部局 (青森県環境エネルギー部)
5	1. 4 河川環境の現状と課題 1. 4. 1 河川環境の現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文4行目の「ホンドザル」及び写真の「ホンドザル（地域個体群）」 青森県レッドデータブックでは、ホンドザルではなく地域限定希少野生生物 (LP) として津軽半島の「ニホンザル」が掲載されている。国土交通省のホームページでは、津軽半島に鰺ヶ沢町は含まれていないことから、本文の「ホンドザル」、写真の「ホンドザル（地域個体群）」という表記の根拠を確認し、県のレッドデータブックが根拠だった場合には、ホンドザル（地域個体群）ではないため、記載を修正してください。</li> </ul>	本文変更 (p. 16 1. 4. 1)	環境担当部局 (青森県環境エネルギー部)
6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文5行目「レッドリスト（青森県）」 最新版は、「青森県の希少な野生生物-青森県レッドデータブック（2020年版）」のため修正してください。</li> </ul>	本文追加 (p. 16 1. 4. 1)	環境担当部局 (青森県環境エネルギー部)
7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文5～6行目「クマタカ」「イヌワシ」「オニシオガマ」「コマガタケスグリ」 コマガタケスグリは、本件のレッドデータブックに掲載されていない種である。 「クマタカ」「イヌワシ」「オニシオガマ」は掲載されており、「コマガタケスグリ」も掲載されているように誤解されるおそれがあるため、別の種に置き換えるなどの修正を検討願います。</li> </ul>	本文変更 (p. 16 1. 4. 1)	環境担当部局 (青森県環境エネルギー部)
2 河川整備計画の目標に対する事項				
8	2. 3 河川整備の目標 2. 3. 1 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和33年の被害状況と令和4年の被害状況の写真を比べると浸水面積は少なくなっているが、昔の河道跡、洪水時の被害（広がり）、できるのであれば昭和33年以前のものも含めどのくらいの範囲が被害にあったのか念頭に入れながら考えると良い。実際にどこまでやれるかわからないが、その姿勢が必要と思う。 (青森自然誌研究会 斎藤委員)</li> </ul>	本文記載済 (p. 19, 21, 27)	第1回懇談会
9		<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和33年～令和4年まで3年、5年、1年等で災害が発生しているため、真面目に考えていかなければならない対策だと思う。 (青森自然誌研究会 斎藤委員)</li> </ul>	本文記載済 (p. 19, 21, 27)	第1回懇談会
10		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行と変更後の河川で受け入れられる量が450m<sup>3</sup>/sで変わらず、変更後は、残り350m<sup>3</sup>/sを河川以外で受け止めようとしている計画だが、川で受け止める量がかわらないのはなぜか。</li> </ul>	報告	公聴会
11	2. 3. 3 河川環境の整備と保全に関する目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺に生息・生育する動植物調査を十分に行い、これらへの影響を極力与えないように取り組んでいただきたい。</li> </ul>	本文記載済 (p20)	環境担当部局 (青森県環境エネルギー部)
12		<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道橋付近にある根固ブロックが白鳥や魚類の住処となっているため、ブロックの撤去はやめてほしい。</li> </ul>	本文記載済 (p22)	公聴会
13		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新中村橋付近に白鳥が飛来しており、町の観光の見どころでもあるため、遊歩道を整備した方が良いのではないか。</li> </ul>	本文記載済 (p22)	公聴会
14		<ul style="list-style-type: none"> <li>・河道整備前は、シロウオ漁など川と親しくして暮らしていた。河道整備後、急勾配の護岸になり、治水には効果があると思うが、川に近づきにくくなった。</li> </ul>	報告	公聴会
15		<ul style="list-style-type: none"> <li>・中村川にサケの捕獲施設があるため、サケのことをも考えてもらいたい。</li> </ul>	報告	公聴会
16		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい公園に川の中を観察できる施設を作っているが、現在は苔が生えている。この施設はそのまま残していくのか。</li> </ul>	報告	公聴会

No	項目	意見	対応	意見区分
	3 河川整備の実施に関する事項			
17	3. 1. 2 河川工事の種類及び施工の場所並びに当該河川工事の施工により設置される河川管理施設の機能の概要	・今回視察した中村橋の手前に見える丘は城跡であり、この裾の方が中村川の侵食により削られている印象を受けた。そういうものを保護することも必要な観点ではないか。 (中泊町博物館 斎藤委員)	本文変更 (p. 21 3. 1. 2)	第1回懇談会
18		・新富橋は、お年寄りや子供たちにとって重要な橋であり、架け替えに伴い、何年も通行できないとかなり影響があると思う。	報告	公聴会
19	3. 1. 3. 中上流部における治水機能増強検討調査	・現実的にはダムしかないかもしれないが、遊水地やポンプ場を作ればまだ対応できるかもしれないし、放水路というのもあるのではないかと思う。色々な検討結果を聞かせていただければ良い。(弘前大学丸居委員)	本文記載済 (p. 22)	第1回懇談会
20	3. 2. 2 河川の維持の目的及び種類 (2) 河道及び河口の維持	・洪水調節施設を確保することは重要であるが、こういった施設に繁殖力の強い木が生えてしまっているため、維持管理を念頭に入れて物事を考えていく必要がある。 (青森自然誌研究会 斎藤委員)	本文記載済 (p. 24)	第1回懇談会
21		・中村橋付近で河川に土がたまり木が生えていて川が狭くなっている箇所がある。	本文記載済 (p. 24)	公聴会
22		・今回の洪水の後、どこまでラッシュされたのか写真をできる限り集め、河口の粒径や比重を調べれば洪水450m <sup>3</sup> /s流れるときに河口にたまつた砂が吐き出されるかどうか簡単に計算で出すことができるため、事務局に検討してもらうことにする。 (八戸工業大学 佐々木委員長)	報告	第1回懇談会
23		・河口部の浚渫工事を必要なのではないか。 (岩谷町内会 工藤委員)	報告	第1回懇談会
24		・河口に砂がたまっているが、どんな対策を考えているのか。	報告	公聴会
25		・河道の掘削は、魚類の遡上と産卵期である、3~6月の時期を避けるよう配慮してもらえると良い。 (青森県産業技術センター 大水委員)	本文変更 (p. 24 3. 2. 2)	第1回懇談会
26		・親水公園までハゼは遡上しないため、ハゼ釣りは舞戸橋付近の階段護岸でやるしかないが、そこに仮設に使用した土嚢の帶が沈んでいた。釣りをしていると引っかかるため撤去してほしい。	報告	公聴会
	4 河川情報の提供、流域における取り組みへの支援等に関する事項			
27	4. 1. 2 洪水時の情報提供	・河川管理者として避難判断水位等の防災情報を多様な媒体により迅速に情報提供を行うことはもちろんであるが、住民側も迅速な避難行動をとるために能動的に河川情報を得るよう努める必要がある。 (青森中央学院大学経営法学部 中村委員)	本文変更 (p. 25)	第1回懇談会
28	4. 2. 3 流域治水の取り組み	・原案p. 8の表1-2「地域住民の命と暮らしを守る取組」で、②の雨水貯留の実践とあるが、具体的にどんなことを考えているのか。 (青森自然誌研究会 斎藤委員)	本文記載済 (p. 27 図4-2)	第1回懇談会
29		・田んぼダムは20~30%ないと効果は期待できない(せめて流域に対して5%)が中村川流域は田が3%弱なので少ししか効果が期待できない。 (弘前大学 丸居委員)	本文記載済 (p. 27 図4-2)	第1回懇談会
30		・内水氾濫の原因として、町内の側溝の維持管理が、重要であると思う。町か県かわからないが、現状を地域の人々に聞きながら維持管理していくべきだと思う。	報告	公聴会
	その他の意見・要望			
31		・単位の標記 「立法メートル」について、「m <sup>3</sup> 」と「m <sup>3</sup> 」(3が上付き)と「m <sup>3</sup> 」(環境依存文字)の表記のゆれがあるため、いずれかに統一していただきたい。	本文変更	環境担当部局 (青森県環境エネルギー部)
32	(R4の洪水に関連したご意見)	・令和4年8月洪水時は何m <sup>3</sup> /s流れていたのか。 (弘前大学 丸居委員)	報告	第1回懇談会
33		・令和4年8月洪水は、河口部の護岸が壊れたため水位が下がっていた。調査に当たってそれも参考にしていただきたい。 (新田町内会 工藤委員)	報告	第1回懇談会

No	項目	意見	対応	意見区分
34		・令和4年8月洪水の浸水範囲が昭和33年洪水時よりも狭くなったのは、国道が高くなつた、地盤が高くなつたことによるものではないか。 (新田町内会 工藤委員)	報告	第1回懇談会
35		・令和4年8月洪水時は、鉄道橋に大きな木が引っかかり、それにゴミが引っかかってせき止めていたので、堤防越水の原因の一つかと思う。 (参考)	報告	公聴会
36		・令和4年8月洪水の浸水被害は、内水・外水どちらによるものか。	報告	公聴会
37		・令和4年8月洪水時は上流から水が来て、河口部(護岸)から川に落ちている。あそこに降った雨ではない。川の水が入って落ちたものであるため、内水氾濫ではなく越水による災害ではないかなと思っている。	報告	公聴会
38		・新中村橋上流の道路沿いに石を針金で固めていたものを並べているが、水量が大きくなつたとき流されるのではないかと思っている。越水したとこだけ形だけやっているように見受けられる。	報告	公聴会
39	(他管理者に関連したご意見)	・中村橋のたもとに古民家、保管している屏風なども保護の対象になるのではないかと思う。 (中泊町博物館 斎藤委員)	報告	第1回懇談会
40		・秋に白鳥が飛来し、川の上を横断している電柱のワイヤーに引っかかり、けがをしているので、このワイヤーに保護カバーをつけてほしい。	報告	公聴会
42		・4年くらい前、ふれあい公園に不審者がいた。公園のトイレにツタが絡んでいた。整備するのは良いが、安全対策等を実施して頂きたい。	報告	公聴会